

編集後記

私は新しいPCやガジェットに目が無い。最近のヒットは、Mac Book Air (2018) と iPad Pro (2018) だ。あまり期待しないで、いつものようにAppleの新製品を試したいという気持ちと、研究に少しでも役立てたいという想いで購入した。しかし、これを手に入れた時から、私の研究スタイルはガラリと変わった。ただ文章を打つという研究スタイルが変化したと言えば、聞こえは良いのだが、机に向かう私には、よこしまな感情が支配している。この機器に触れたいがために、机に向かっている。

私の最大の欠点は、書くのは比較的早いのが、校正が遅いことだった。学生時代、徹底的に書いた文章を寝かす、ということを経験したものだから、平気で一週間、二週間と校正の作業を止める。もちろん、スケジュールが押し、いつも叱られ迷惑をかけている。たとえ急かされても、「頭で考える時間が多くて」という程の良い言い訳を引っ張り出し、遅々として前に進まなかった。

だけれども、私の弱点を克服させてくれたのが数年ぶりに発売されたMac Book Air (2018) だ。それも、PCの性能や機能、使い勝手がいいから書けるというわけではない。ただ単に、このPCに触れていたいから、タイピングが気持ちいいから、筆が進む。つまり、邪心の産物が仕事を効率化させるという、なんだか、こんな思いが土台にあると思うと、若干恥ずかしくもあり、情けなくも感じる。

Mac Book Air で書き、iPad Pro で Apple Pencil を使いPDF化された校正用紙に赤を入れ、即座に隣の画面に写し出しておいたメールアプリに指でスライド添付し、送信ボタンを押して出版社に入稿するという作業が、楽しくて、楽しくて。もちろん、Apple Watch で時間やメールを確認し、Air Pods でお気に入りの音楽を聴きながら。

そんな私が心から期待する次のガジェットはGlassだ。これが出たら、何処にいてもなんだってできる。軍用では完成しているのだから、民間に技術転用も間近だと密かに期待している。ただ、学生が授業で、Glassをかけて、講義や試験を受けると思うと、ゾツともする。目の動きで文字を打ち、テキストを送信し、黒板を撮影し、講義を録画でできてしまうのだから。これからも、もっともっと研究スタイルの革命が訪れるだろうし、期待せずにはいられない。研究に対する好奇心と研究ツールへの好奇心の両輪が同じ速度で回り続けるなかで、私は物事を表現するスタイルなのかもしれない。

さて、本号でも色々なスタイルで書かれた内容の深い論文を数多く掲載することができた。とくに、今回は当研究員だけではなく、当研究所の研究に賛同頂けた他所属の先生による論文も収めることができ、とても嬉しい。そして、本『国際経営フォーラム』は、製本された冊子だけではなく、電子化されているので、みなさんのスタイルに合わせて、好きなPCやガジェットにて読んで頂けることを願っている。

編集委員長 小島 大徳